

# 海や船に関する仕事への興味に関するアンケート 集計結果報告（高校生・大学生）

---

令和3年2月

国土交通省海事局

## はじめに

四面を海に囲まれた我が国において、外航海運は輸出入貨物の 99.6%（2019 年、トン数ベース）の輸送を、内航海運は国内貨物の約 4 割、産業基礎物資の約 8 割（いずれも 2018 年度、トンキロベース）の輸送を担うとともに、国内海上輸送は年間約 9 千万人が利用するなど、海運業は我が国の経済、国民生活にとって大きな役割を果たしています。また、我が国造船業は、高い国内生産率を維持し、高度な技術力に裏打ちされた高性能・高品質な船を供給することより、我が国の貿易を支えるとともに、船舶の部品や舶用機器等を製造する関連産業がいわゆる「海事クラスター」を組成し、地域に集積する裾野の広い労働集約産業として、地方の経済と雇用の支柱となっています。海事産業は我が国にとって必要不可欠な基盤であり、それを支える人的基盤をより充実させ、強化することは極めて重要なのです。

本調査は、就職に対して意識が高くなると思われる高校2年生、高校3年生、大学2年生、大学3年生（内定者除く）の1,000名を対象に、「SEA-GOTO 海のシゴトガイドブック」の一部を読んでもらい、海事産業に対する認知度、各業界に対してのイメージ、職業として関心度等を調査したものです。海事産業について一定の知識を持ってもらったうえで、就職先候補として考えた際のネガティブ要素や誤解を把握するとともに、知識を得る前と後でのイメージの変化等を業界別に集計しました。

今後、少子高齢化や生産年齢人口の減少が更に進み、他産業との人材獲得競争の激化が想定される中で、海洋立国日本の要となる海事産業の維持と成長を支える人材の確保・育成の取組を一層強化することが不可欠です。本調査結果を、海事人材の確保・育成や日頃の広報活動の参考としていただければ幸いです。

# 目次

調査概要	... P4
調査①   先行調査（文献調査）	
調査①-1   先行調査（文献調査）の概要	... P6
調査①-1   高校生の就職先検討に関する行動様式	... P7
調査①-3   高校生採用のルールとスケジュール	... P9
調査①-4   就職活動における行動様式	... P11
調査②   アンケート調査	
調査②-1   調査概要/回答者属性	... P14
調査②-2   事前調査（学生の海事産業全般への就職の興味について）	... P15
調査②-3   学生への教材提供	... P16
調査②-4   設問の内容	... P18
調査②-5 アンケート結果   海運業への就職の興味について	... P10
調査②-6 アンケート結果   造船産業への就職の興味について	... P23
調査②-7 アンケート結果   海事産業全般への就職の興味について	... P26
調査②-8 アンケート結果   海事産業全般への就職の興味について（調査前との比較）	... P27
参考（クロス集計）	

# 調査概要

本調査は、海事産業における若年人材確保に向けた取り組み一環として、学生の就職活動における行動様式等に関する文献調査を行うとともに、就職活動を控えた学生達を対象に意識調査を行うことで、海事産業に対する認知や理解の度合いを測りつつ、一定程度学生の理解を高めた上で海事関連業界への就職について検討してもらい、今後の人材確保を進めていくうえで改善・強化が必要な広報施策等を分析するものである。

## 調査① 就職活動に関する行動様式等について

学生（高校・大学）就職活動に関する行動様式について、先行調査や関連統計、公開資料等により文献調査を行い、把握する。

## 調査② 就職を控えた学生の海事産業への理解度及び同産業への就職に対して有する意識について

就職活動を控えた学生（高校・大学生）の、海事産業に対する認知や海事産業の重要性に関する理解の度合い、就職先として検討した場合に魅力的に感じる項目等について把握するための調査として、学生1,000名に対し、インターネットアンケートを行う。アンケート実施にあたり、調査対象である学生達が、海事産業について十分な知識や理解を有していないことが予想されたため、海に関わる仕事の種類や特徴、働きがいなどを教材として新たにまとめ、アンケート調査の一環として学習してもらったうえで、就職先としてどのような認知を持つか、集計・分析を行う形式とした。



学生に提供した教材の例

## 調査実施の流れ

> 調査① 就職活動に関する行動様式等について

> 調査② 就職を控えた学生の海事産業への理解度及び同産業への就職に対する意識について

先行調査（文献調査）

事前調査

学生への教材提供

アンケート調査

学生（高校・大学）の就職活動について、就職先の検討や実際の就職までのスケジュールなどについて、公開資料等で文献調査

本調査前の「学生の海事産業全般への就職の興味について」把握

本調査を通じ階産業「SEA-GOTO」の一部を教材として学生に提供

学生が就職先として海事産業を考えた際のイメージや認知度の変化等を調査・集計



# 調査① | 先行調査（文献調査）



## 調査①-1 | 先行調査（文献調査）の概要

調査②の実施にあたり、就職活動を控えた学生（高校及び大学）の就職活動を行う上での意思決定過程や、採用活動スケジュール等の行動様式等について、先行調査や関連統計、公開資料等により文献調査を行った。学生（高校及び大学）が就職に対して特に意識が高くなる時期を把握し、調査②のアンケート調査の実施時期、対象学年等を定めた。

### 高校生の就職活動に関する行動様式

#### 令和4年3月新規高等学校卒業者の就職に係る採用選考期日等について

- ・ ハローワークによる求人申込書の受付開始 6月1日  
※高校生を対象とした求人は、ハローワークにおいて求人の内容を確認したのち、学校に求人が提出されます。
- ・ 企業による学校への求人申込及び学校訪問開始 7月1日
- ・ 学校から企業への生徒の応募書類提出開始 7月5日  
(沖縄県は8月30日)
- ・ 企業による選考開始及び採用内定開始 9月16日



POINT

高校生向けの求人情報は、主に高校の進路指導室に集まるため、高校生のほとんどは学校斡旋での就職活動を行うことになる。

参考：厚生労働省 令和4年3月新規高等学校卒業者の就職に係る採用選考期日等について  
([https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000193580\\_00007.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000193580_00007.html))

参考：厚生労働省 令和2年度の高校生の就職活動日程の変更について  
(<https://www.mhlw.go.jp/content/11652000/000638710.pdf>)

参考：東京労働局 新規学校卒業者の採用について  
([https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/hourei\\_seido\\_tetsuzuki/shokugyou\\_shoukai/\\_121483.html](https://jsite.mhlw.go.jp/tokyo-roudoukyoku/hourei_seido_tetsuzuki/shokugyou_shoukai/_121483.html)) c

### 大学生の就職活動に関する行動様式

#### 2022年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程に関する考え方について

- ・ 広報活動開始：卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降
- ・ 採用選考活動開始：卒業・修了年度の6月1日以降
- ・ 正式な内定日：卒業・修了年度の10月1日以降



POINT

大学と関わりなく就職活動を行う自由応募と、大学推薦があり、学生個人の責任において就職活動が行われるのが場合が多い。

参考：内閣官房 2022年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程に関する考え方  
([https://www.cas.go.jp/seisaku/shushoku\\_katsudou/index.html](https://www.cas.go.jp/seisaku/shushoku_katsudou/index.html))

参考：内閣府 学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査  
(<https://www5.cao.go.jp/keizai1/gakuseichosa/index.html>)

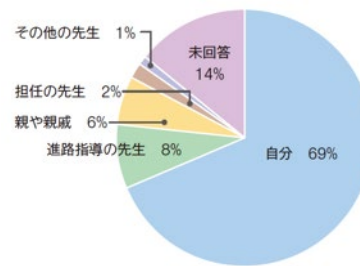
## 調査①-2 | 高校生の就職先検討に関する行動様式

未成年者であり、就職や世の中の職業について十分な知識やその探し方について十分な知見のない高校生については、就職希望先の決定までのプロセスが大学生とは異なるため、文献調査によりその行動様式の調査を行った。

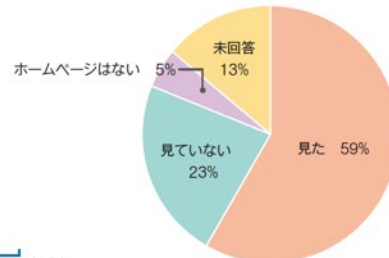
### 就職先の企業について

- 就職を希望する会社は「自分」で決めたという回答が、およそ70%と圧倒的多数を占める。続いて「進路指導の先生」、「親や親戚」の順となっている。
- 会社を選択する際に重視するポイントについては、求人票を見る際の重視ポイントと同じく「勤務時間・休み」が最も多い。続いて「給料」「会社の雰囲気・設備・制度など」が多くみられる。
- 希望する企業のホームページを見ている生徒は全体の約60%。

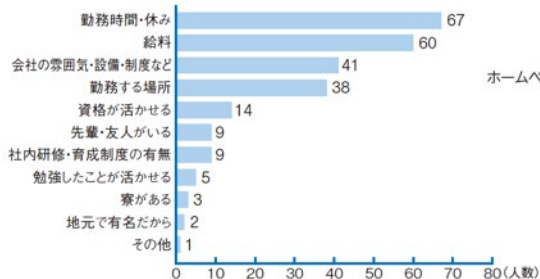
#### ● 就職希望左記の会社を選択したのは誰ですか



#### ● 希望する会社のホームページは見ましたか？

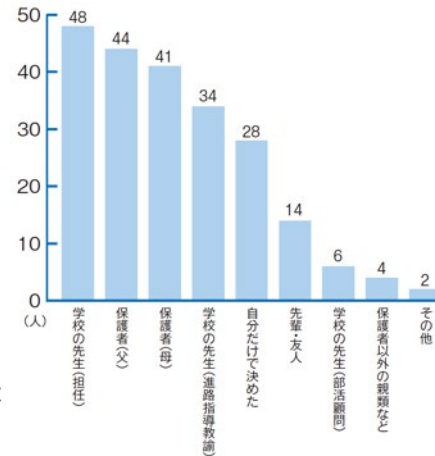


※ 重視する項目3つまで複数回答可

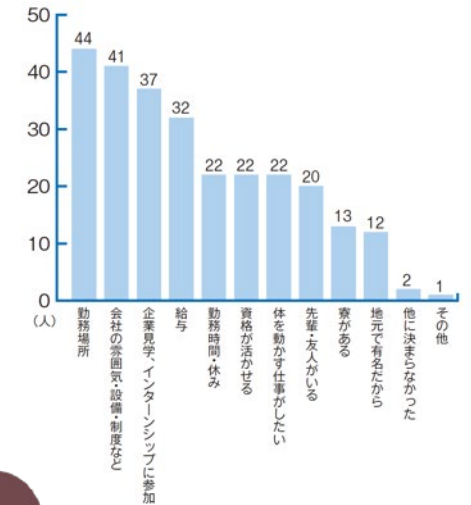


### 内定先の決定理由について

#### ● 就職意思決定の影響者 ※3つ以内選択



#### ● 就職先決定の決め手になった理由



未成年者であり、家族以外の社会人と接する機会が少ない高校生について、進路や就職先企業を検討する上でニーズのある情報や不安要素などについて、先行調査により把握した。

### これから就職先を決めるにあたり、不安に思っていることは何ですか。（自由記述）

- 人間関係に馴染めるか不安
- その会社を選んで後悔しないか
- 自分が社会に通用するのか不安になる
- 休みたいときに休めるのか心配
- 社会という組織に自分が押しつぶされないか不安
- 給料は上がっていくのだろうか
- 仕事ができるか、パソコンがちゃんと使えるか、上達していけるか心配
- 先輩とちゃんとコミュニケーションをとって、なかよくできるか不安
- 複数の会社を見学できないので、最初からひとつに絞るのは不安
- 会社が倒産することはないか、急に解雇されることはないか心配に思う
- 残業時間が多いのではないかと心配になることがある
- 現場で失敗しないか不安
- 会社に対するイメージがはっきりしていないことが不安
- まだまだ仕事を覚えなければいけないこともあり、朝も早いので、自分の体調管理をしっかりしようと思うが、ちゃんとできるか不安
- 今の段階では分からないことばかりが多くて、何もかもが不安

### 就職活動をしていて、「こんな情報があればいいのに」と思うことはありますか。（自由記述）

- 身近な先輩からの情報を聞く機会を増やしてほしい
- 知りたい情報を直接会社の方に聞ける手段があればいいと思う
- ホームページに実際の作業風景の動画があるといいと思う
- ホームページに入社1～2年くらいの社員の生の声があったらよと思う
- 地方へ就職する際の情報が少ないように感じる
- 地方の会社への行きやすいようにしてほしい
- 平均残業時間
- パンフレットがあるとわかりやすかった
- 会社の雰囲気や上下関係が知りたい
- 会社に勤めている人の感想や、やっておいた方がいいことのアドバイス
- ホームページの内容が難しいように感じた
- 職場の写真や作業中の写真が見れるパンフレットやホームページがあるといいと思う





## 調査①-3 | 高校生採用のルールとスケジュール

新規高等学校卒業者の採用に関しては、採用計画、採用方針、雇用条件、選考基準、選考方法を明確に策定し、求人活動を行うことが基本です。求人活動のルールとして一番大切なのがスケジュールです。求人を目的とした学校訪問、選考日については「推薦開始期日」「選考開始期日」について規制があります。また、求人活動において企業、学校、生徒をつなぐ要となるのが「求人票」です。この求人票の作成も採用を大きく左右するものとなります。これらのポイントをおさえて、より効果的な求人活動を行っていきましょう。

### 必ずおさえない基本の3つのルール

#### ルール1 ハローワークの手続きとスケジュールを知ろう

求人申込書の提出、求人票の返戻、学校への求人票の送付または訪問、推薦開始期日、選考開始期日はそれぞれ規制があります。詳しくは次ページのチャートをご覧ください。また年度によって変更される場合があるので、必ず事業所を管轄するハローワークにおたずねください。

#### ルール2 1人1社制というルール

1人の生徒が、ある会社の募集に応募した場合、一定期間についてはその選考結果が決まらない限り他の会社の求人に応募できない就職慣行があります（1人1社制（※））。不採用の場合、通知が遅れると生徒が他社へ応募する機会が失われます。採否は選考後、速やかに決定し、極力7日以内に学校を通じて本人に通知してください。

#### ルール3 求人活動は学校を通じて行われます

高校生の採用について、求人票の提出、応募の受付、生徒への連絡等は学校を通じて行います。企業が直接家庭訪問をするといったことは禁止されています。高校生の採用を考える企業は、学校との関係性を深めることがポイントです。



## 求人票作成の5つのテクニック

テクニック  
1

### 募集を希望する学校がある場合は指定校求人

高校を指定して求人を出す指定校求人、高校を指定せず、どの高校からも応募できる公開求人があり、いずれかを選択できます（求人申込書に記載欄があります）。募集を希望する学校（推薦依頼校）を指定することができます。多くの企業は推薦依頼校へ求人を出しており、企業も学校もより確度の高い採用に努めています。インターネット公開希望求人は、全国の高校に対して、「高卒就職情報WEB提供サービス」（※）を通じて求人情報を提供しています。

テクニック  
2

### 求人票で生徒が重視する項目は、給与、勤務地、離職率

生徒が求人票の項目の中で重視しているポイントは、給与、勤務地、離職率が多く、また仕事の内容なども読まれています。直近3事業年度の離職者数については、求人申込書に情報を記載することになりました。高校生にも分かりやすく記載することが効果的。

テクニック  
3

### 応募前の職場見学は積極的に

生徒が応募前に職場見学を行うことは、職業や職場への理解を深め、自分の目で応募先を選ぶ良い機会となります。実際に見学を行って採用につながるケースも少なくありません。また、事前の理解不足による就職後の早期離職の防止にも資することになります。また、生徒に採用選考前に直接会える貴重な場となります。ぜひこの機会を積極的に活用しましょう。

テクニック  
4

### パンフレットやインターネットを活用

求人票に記載できる内容には限りがあります。生徒たちは興味をもった企業については、パンフレットやホームページを通じて情報を収集を行います。求人票に会社のパンフレットを添付する、またホームページより多くの情報を発信することが不可欠といえます。

テクニック  
5

### 求人票は持参して情報共有を図りましょう

求人票が受理されたら、企業から学校へいち早く届けることが鉄則です。7月1日の解禁日以降、近年では生徒数を大きく上回る数の求人票が学校に届きます。その中で自社を印象付けること、求人者の状況を知るために、求人票は持参することをお勧めします。

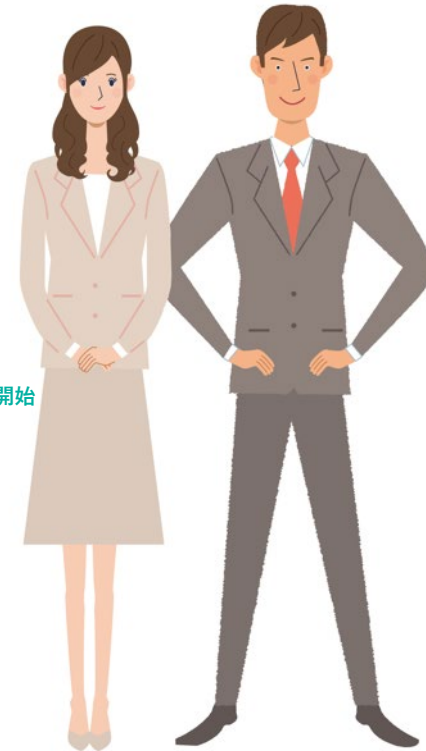
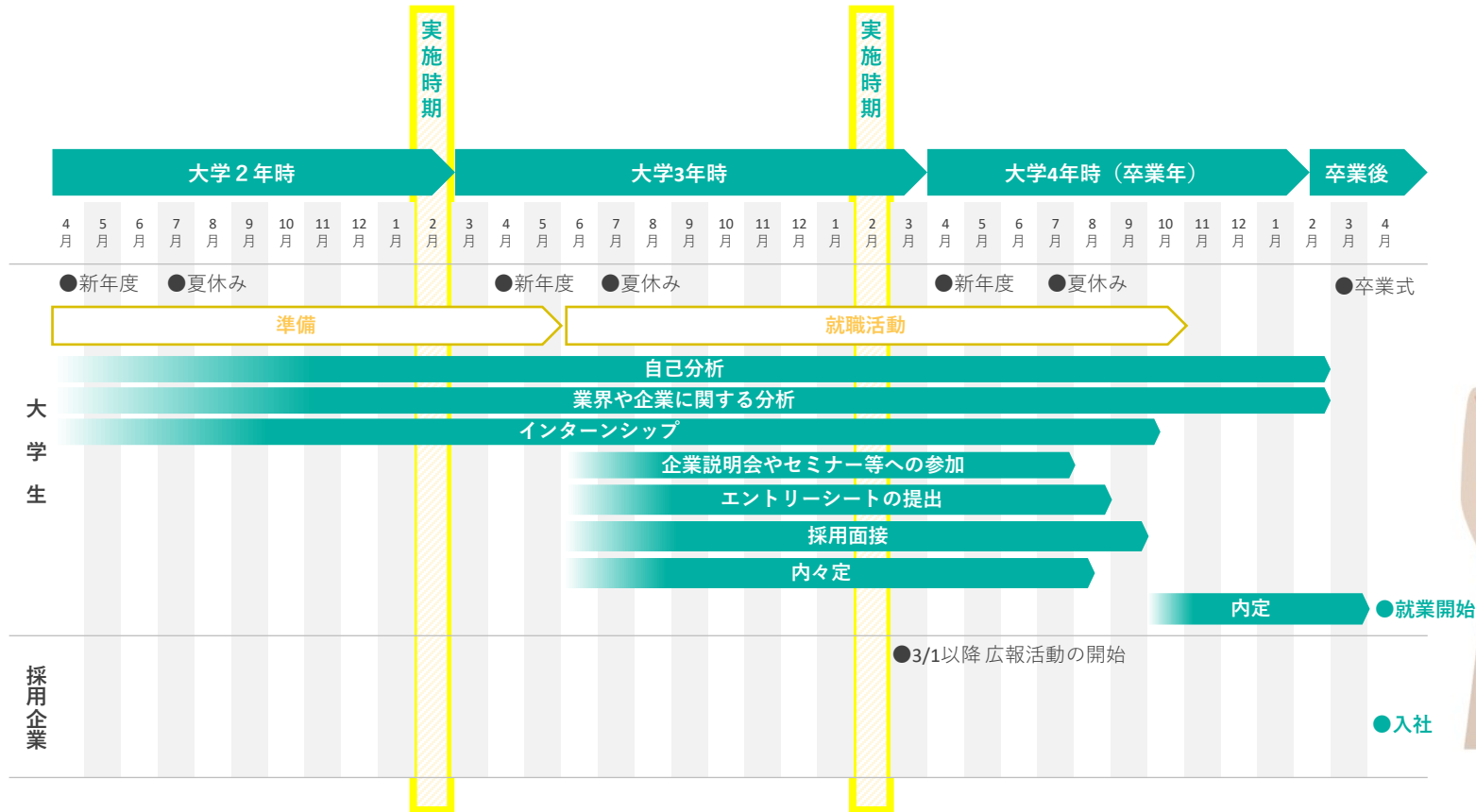




# 調査①-4 | 就職活動における行動様式

大学生

大学生の対象学年については、就職・求人活動時期の傾向から、就職意識の高まるとと思われる大学2年生、大学3年生をアンケート調査の対象とし、実施時期は、高校生同様2月を設定した。内定者は除くものとする。



参考：内閣官房 2022年度卒業・修了予定者の就職・採用活動日程に関する考え方 ([https://www.cas.go.jp/seisaku/shushoku\\_katsudou/index.html](https://www.cas.go.jp/seisaku/shushoku_katsudou/index.html))  
 参考：内閣府 学生の就職・採用活動開始時期等に関する調査 (<https://www5.cao.go.jp/keizai1/gakuseichosa/index.html>) c



## 調査② | アンケート調査



## 調査②-1 | 調査概要/回答者属性

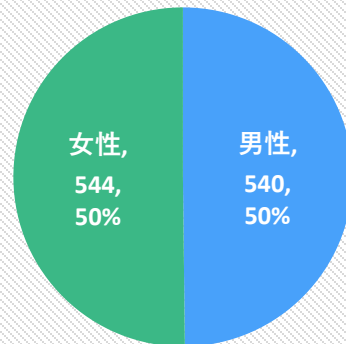
就職を控えた学生の海事産業への理解度及び同産業への就職に対して有する意識について

調査名	海や船に関する仕事への興味に関するアンケート
調査方法	インターネット調査（Web上のアンケートフォームより入力）
調査期間	2021年2月12日～2021年2月20日
調査対象	全国の高校2年生、高校3年生及び大学2年生、大学3年生（内定者除く）
回答数	1,094名（高校2年生 271人、高校3年生 277人、大学2年生 271人、大学3年生 275人）

学年/性別 内訳

学年/性別	性別	人数
1_高校2年生 男性	男性	135
2_高校2年生 女性	女性	136
3_高校3年生 男性	男性	135
4_高校3年生 女性	女性	142
5_大学2年生 男性	男性	135
6_大学2年生 女性	女性	136
7_大学3年生 男性	男性	135
8_大学3年生 女性	女性	140
合計		1,094

性別比

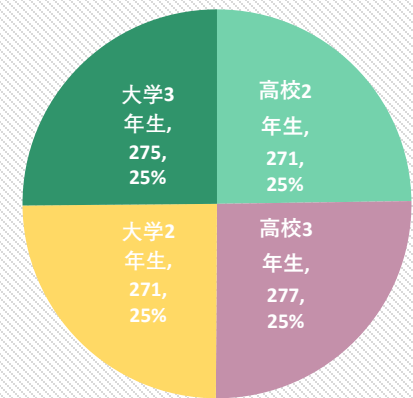


※対象者の住居地は自回収とする。

学種 内訳

学種	人数
普通高校	432
工業高校	33
商業高校	31
水産・海洋系高校	8
その他高校	44
文系大学	297
理系大学	193
海洋系大学	42
その他大学	14
合計	1,094

学種比

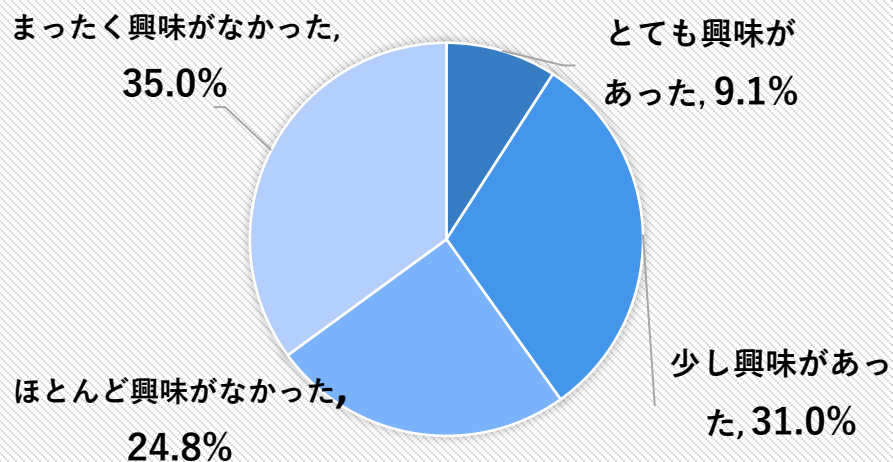


## 調査②-2 | 事前調査（学生の海事産業全般への就職の興味について）

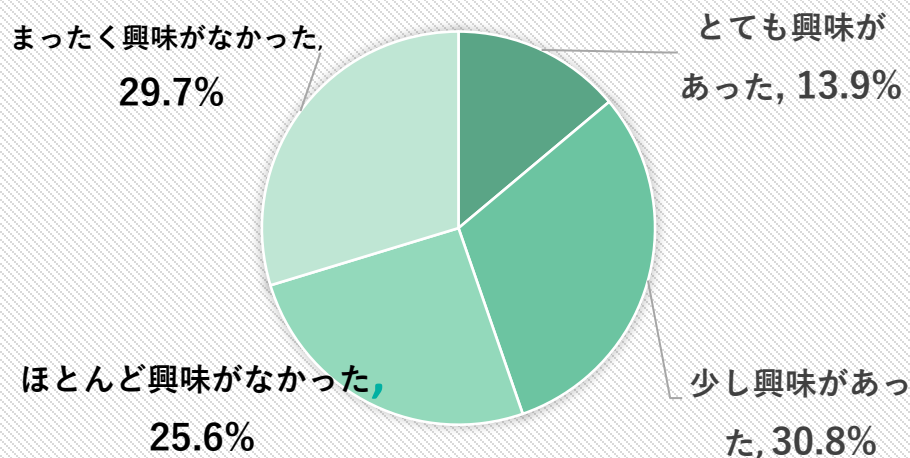
問10

アンケートの実施前に、海運業や造船産業等の海事産業（海や船に関する業種）への就職に興味を持ったことはありますか。

高校生



大学生

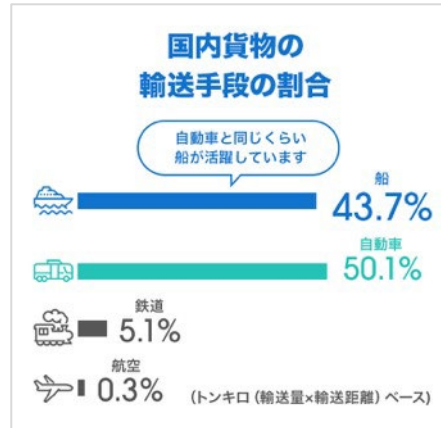


POINT  
考察

事前調査では、「とても興味があった」が高校生、大学生ともに10%にとどまり、「少し興味があった」が高校生31%、大学生30.8%となった。また、「ほとんど興味なかった」と「まったく興味なかった」の回答を合わせると、高校生、大学生それぞれで全体の半数以上を占めており、海事産業が就職先として学生から高い関心を得られていないことが分かった。

## 調査②-3 | 学生への教材提供 (海運業)

海のシゴトガイドブック (SEA-GOTO) を活用し、今回の調査用に制作した教材



### 世界の物流を支える 社会インフラ「海運業」



島国である日本では、貿易量の99.6%、国内輸送の4割は、海上輸送が担っており、海運業がなくては、国民生活も経済活動も成り立たないことをご存知でしょうか。

また、世界有数の船腹量 (船の輸送力) を有する我が国の海運業は、国内だけでなく、世界の物資輸送を支える国際的な社会インフラであり、国内外に対する社会的貢献度や重要性がとても高い業界なのです。

### 仕事の特徴



海運業の職種は、大きく「海上職」と「陸上職」に分かれています。

「海上職」は、船の最高責任者である「船長」、操船や荷役を行う「航海士」、エンジン・発電機などの維持・管理を行う「機関士」などの職種に分かれています。大きな貨物船でも船員数は20名程度ですので、気心の知れた仲間と働くことができる仕事です。

「陸上職」は、船の運航管理、営業、組織管理などの事務系業務が中心であり、海外の港や荷主、造船所とのやりとりなど、時には外国語を駆使しながら、運ぶ荷物や船の動きの調整、プロジェクトのマネジメントなどを行います。

### 就職先としての魅力



海上職の魅力はなんといっても、世界の海を舞台に活躍できることです。ただし、船舶に乗船すると、土日祝日も船は止まらないので、基本的に休暇はありません。しかし、下船した後に、まとめて休暇を取ることができます。例えば、6ヶ月乗船した後、3か月間の休暇を取得して、自由気ままな旅に出るなんてことも可能な珍しい職業です。

陸上職も、グローバルな活躍が可能です。国際海上輸送を行う会社では世界の各地の事業所への転勤の可能性もあり、海外での生活を目指す方にも適した職業です。また、会議や商談のための海外出張で、世界の顧客を相手にすることで、洗練された国際感覚や流ちょうな語学力を身に着けることもできるかもしれません。



## 調査②-3 | 学生への教材提供 (造船産業)

海のシゴトガイドブック (SEA-GOTO) を活用し、今回の調査用に制作した教材

### 世界で輝く ニッポンの造船技術!



### 世界で一番大きなもの をつくる仕事「造船産業」



船は、世界で一番大きな工業製品であり、例えば、長さが東京タワー以上にもなる全長400mを超える船もたくさんあります。また、一般的な大量生産の工業製品と違い、オーダーメイドで建造されるため、図面設計や製造工程の技術力や経験が、船舶の性能や品質に大きく影響する究極の「ものづくり産業」と言えます。

また、我が国は世界シェア3位の造船大国であり、その造船技術の世界トップレベルであり、世界の造船分野をリードしています。現在、温室効果ガスを排出しない究極のエコシップ「ゼロエミッション船」や「自動運航船」の実用化へ向けた研究開発により、地球環境負荷の低減や輸送の効率化にも取り組んでいます。

### 仕事の特徴



造船産業の職種は、主に、「マーケティング・営業」、「計画・設計」のようなデスク系職種と、「建造・修繕」を行う技能系職種に分かれます。

「マーケティング・営業」は、発注者（オーナー）と船舶の用途に合わせた大きさや能力を検討して、建造契約を結びます。造船は世界単一市場なので、世界中のオーナーやライバル会社を相手にするグローバルな仕事です。

「計画・設計」は、船舶を建造するための工程や図面を作成します。担当者の知識やアイデアが、船の性能や品質を決めるため、責任は重大ですが、それだけやりがいのある仕事です。

「建造・修繕」は、設計図面にに基づき、実際に船を建造していく仕事です。多数の鉄板や材料の切断、溶接、組立、塗装、そして様々な機械や備品の取り付け等を経て、世界で一番大きな工業製品に完成させます。

### 就職先としての魅力



「ものづくり産業」の魅力は、目に見える成果（製品）が実感できることです。特に造船産業の場合は、自分が担当した巨大な船が世界中の海で活躍することを想像しただけで、少し興奮してきませんか。そして、建造プロジェクトは、時には何十億円規模にもなるスケールの大きな仕事であり、無事に完了する時には大きな達成感を感じることができます。

また、国際貿易において海上輸送は増加し続けていますし、国内物流においても海上輸送は代替のできない重要な輸送モードです。世界の造船産業（造船市場）は、過去85年間では約60倍に成長しており、将来的にも国民生活や経済にとって必要不可欠な産業であると言えます。

## 調査②-4 | 設問の内容

### 基本情報

- ✓ 問1～問9. 学年、性別、学種等

### 事前調査 | アンケート前の「学生の海事産業全般への就職の興味について」

- ✓ 問10. このアンケートの実施前に、海運業や造船産業等の海事産業（海や船に関する業種）への就職に興味を持ったことはありますか

### アンケート調査 | 教材を提供後のアンケート「海運業への就職の興味について」

世界の物流を支える社会インフラ「海運業」について、次の5枚の資料を御覧ください。

我が国、そして世界の日常生活や経済活動に必要な不可欠な社会インフラである海運業への就職について、どのような印象をお持ちですか。それぞれの項目について、5段階でお答えください。

- ✓ 問11. 海運業への就職について「将来性があると思う」
- ✓ 問12. 海運業への就職について「国際性があると思う」
- ✓ 問13. 海運業への就職について「社会的貢献ができると思う」
- ✓ 問14. 海運業への就職について「やりがいがあると思う」
- ✓ 問15. 海運業への就職について「収入が高いイメージがある」
- ✓ 問16. 海運業への就職について「体力が必要だと思う」
- ✓ 問17. 海運業への就職について「語学力が必要だと思う」
- ✓ 問18. 海運業への就職について「女性が活躍できると思う」
- ✓ 問19. 海運業への就職について「就職先としてのイメージがよい」
- ✓ 問20. このような社会的貢献度の高い職業に興味がありますか。
- ✓ 問21. 船員の仕事は、例えば、6か月乗船して3か月の連続休暇が取得できるなど、特殊な勤務体制ですが、就職先として魅力を感じますか。
- ✓ 問22. 海運業では、「船員」だけでなく、運航管理やマーケティングなどを担当する「陸上職」も重要な役割を担っていることをご存じでしたか。

## アンケート調査 | 教材を提供後のアンケート 「造船産業への就職の興味について」

世界で一番大きなものをつくる仕事「造船産業」について、次の3枚の資料を御覧ください。

世界の造船シェア3位であり、世界トップクラスの造船技術を有する造船産業への就職について、どのような印象をお持ちですか。それぞれの項目について、5段階でお答えください。

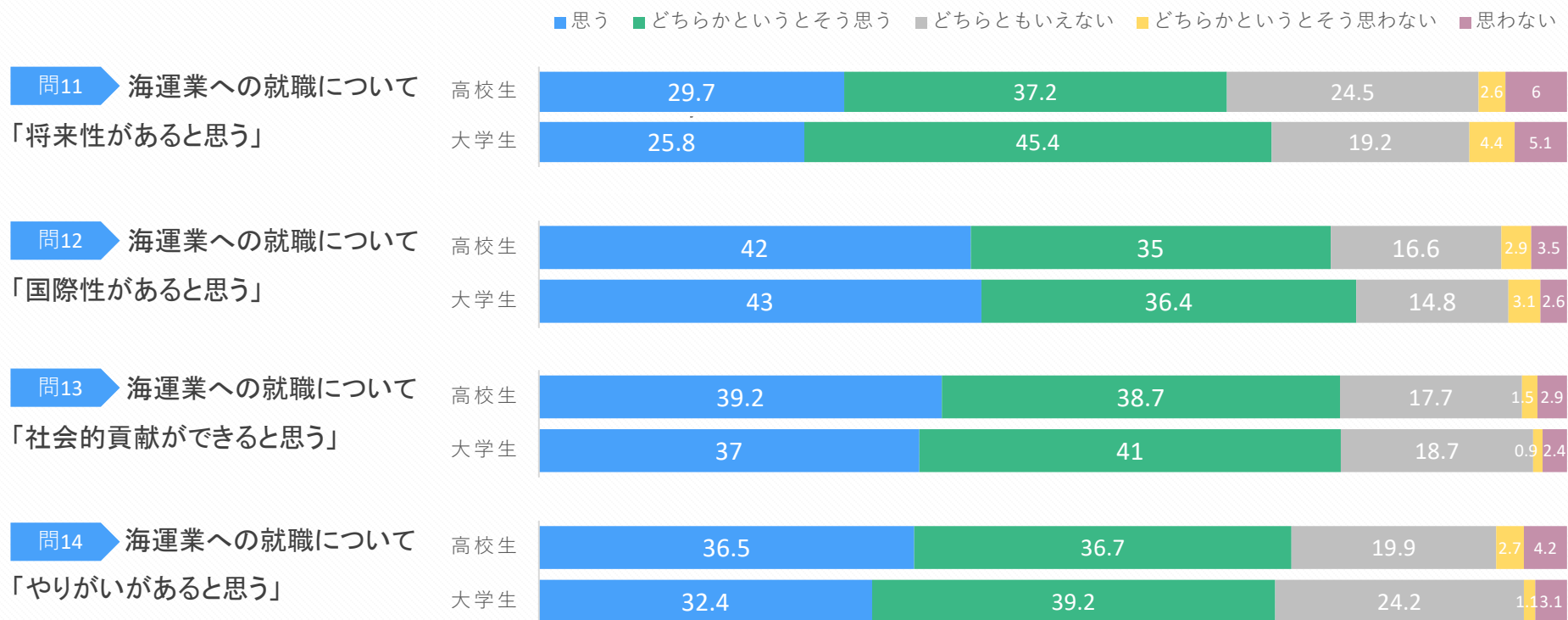
- ✓ **問23.**造船産業への就職について「将来性があると思う」
- ✓ **問24.**造船産業への就職について「安定していると思う」
- ✓ **問25.**造船産業への就職について「国際性があると思う」
- ✓ **問26.**造船産業への就職について「社会的貢献ができると思う」
- ✓ **問27.**造船産業への就職について「やりがいがあると思う」
- ✓ **問28.**造船産業への就職について「収入が高いイメージがある」
- ✓ **問29.**造船産業への就職について「体力が必要だと思う」
- ✓ **問30.**造船産業への就職について「語学力が必要だと思う」
- ✓ **問31.**造船産業への就職について「女性が活躍できると思う」
- ✓ **問32.**造船産業への就職について「就職先としてのイメージがよい」
- ✓ **問33.**世界で一番大きな工業製品を建造する究極の「ものづくり産業」である造船産業への就職に興味がありますか。
- ✓ **問34.**造船の仕事は、実際に船を建造する技能系職種だけでなく、営業・マーケティングや図面設計などを行うデスク系職種も重要な役割を担っていることをご存じでしたか。

## アンケート調査 | 教材を提供後のアンケート 「海事産業全般への就職の興味について」

- ✓ **問35.**このアンケートの実施後における、海運業や造船産業等の海事産業（海や船に関する業種）への就職に対する興味はいかがですか。
- ✓ **問36.**今回の調査を通じて海事産業について知ったことで、将来の仕事として関心をもった職種はありますか？当てはまるものをすべてお選び下さい。
- ✓ **問37.**海や船にかかわる仕事について、今後どのような情報機会があれば、見てみたい/参加してみたいですか？当てはまるものをすべてお選び下さい。

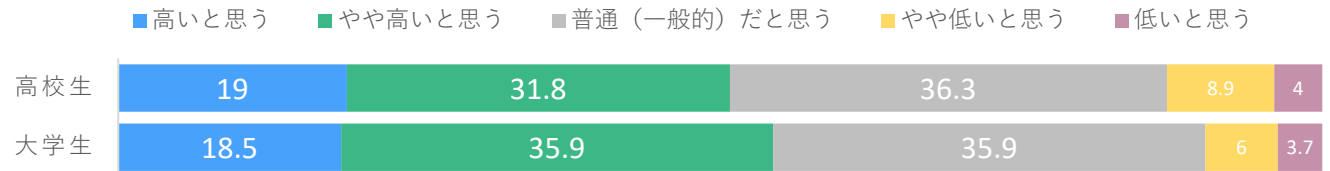
## 調査②-5 アンケート結果 | 海運業への就職の興味について

世界の物流を支える社会インフラ「海運業」について、次の5枚の資料を御覧ください。  
我が国、そして世界の日常生活や経済活動に必要不可欠な社会インフラである海運業への就職について、  
どのような印象をお持ちですか。

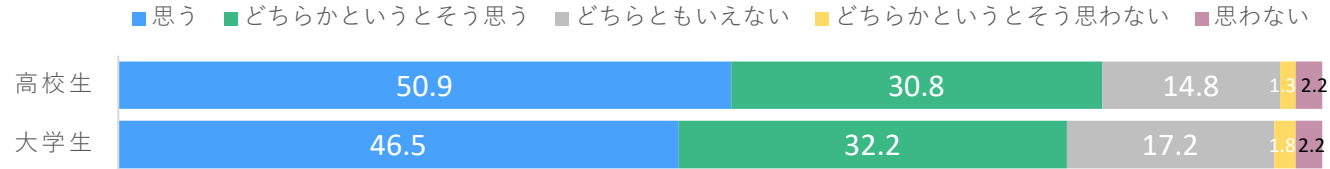


問11～問14において、「思う」、「どちらかというと思う」との回答を合わせると、いずれも7割程度またはそれ以上を占めることから、学生らに教材を読んでもらうことで、海運業が日本の産業と経済の発展に大きく貢献していることへの一定の理解や、海運業への就職に対し肯定的なイメージを持ってもらう結果となった。

問15 海運業への就職について  
「収入が高いイメージがある」



問16 海運業への就職について  
「体力が必要だと思う」



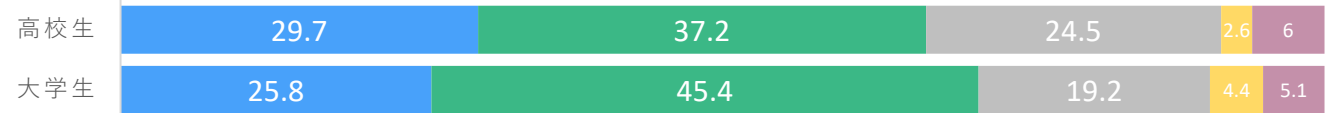
問17 海運業への就職について  
「語学力が必要だと思う」



問18 海運業への就職について  
「女性が活躍できると思う」



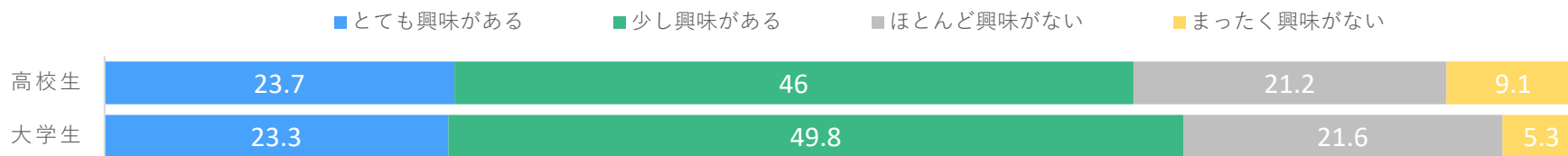
問19 海運業への就職について  
「就職先としてのイメージがよい」



問19において、海運業について就職先としてのイメージについて、肯定的に答えた学生が高校・大学共に約7割程度に及んでいることから、特に大学生については、一般大学からでも船員を含む海運業に就ける道などを認知してもらうことで、将来の選択肢に入ってくる可能性がある。

一方で、大多数の学生が海運業について体力が必要な力仕事と認識しており（問16）、また、海運業において女性の活躍が進んでいることも十分に認識されていないことが分かった（問18）。このことから、海運業については力仕事・男の職場という古いイメージを払拭するとともに、乗組員だけでなく多様な職種が存在、女性が働きやすい職場環境への変化などについて、認知の向上を図ることが有効と考えられる。

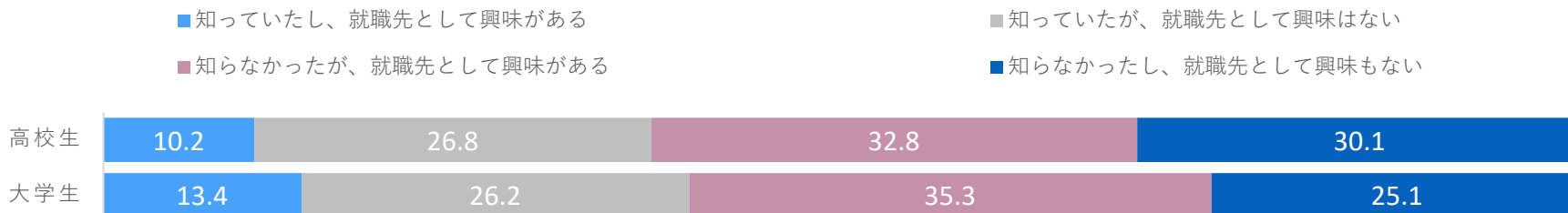
問20 このような社会的貢献度の高い職業に興味がありますか。



問21 船員の仕事は、例えば、6か月乗船して3か月の連続休暇が取得できるなど、特殊な勤務体制ですが、就職先として魅力を感じますか。



問22 海運業では、「船員」だけでなく、運航管理やマーケティングなどを担当する「陸上職」も重要な役割を担っていることをご存じでしたか。



問20において、コロナ禍でも日本の貿易や経済活動を支えるなど「社会的貢献度」の高い海運業への就職について、「とても興味がある」または「少し興味がある」と回答した学生が、高校生で69.7%、大学生では73.1%に及んだ。

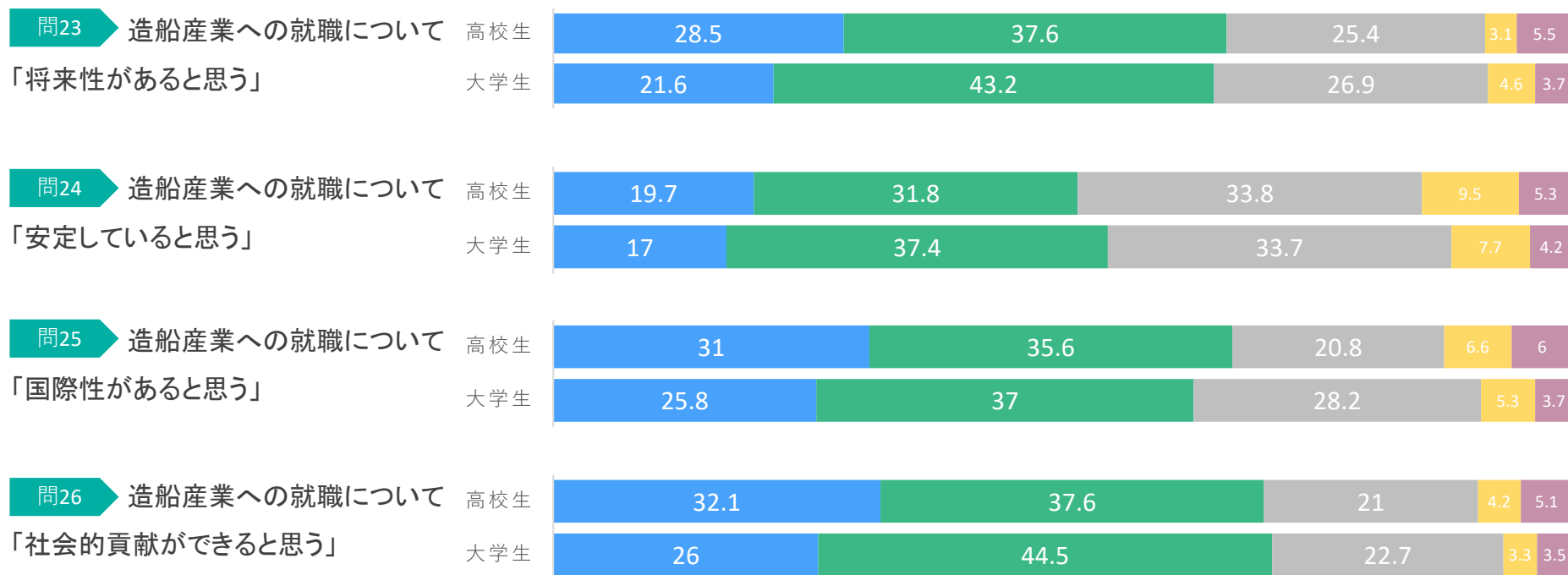
また、海運業における「陸上職」について、認知度はあまり高くなかったものの、「よく知らなかったが就職先として興味がある」との回答が高校生、大学生のいずれも3割を超えており、一般的に「船員」の職種イメージが強い海運業において、陸上職についても認知向上を図ることで、就職先としての関心を高められる可能性がある。



## 調査②-6 アンケート結果 | 造船産業への就職の興味について

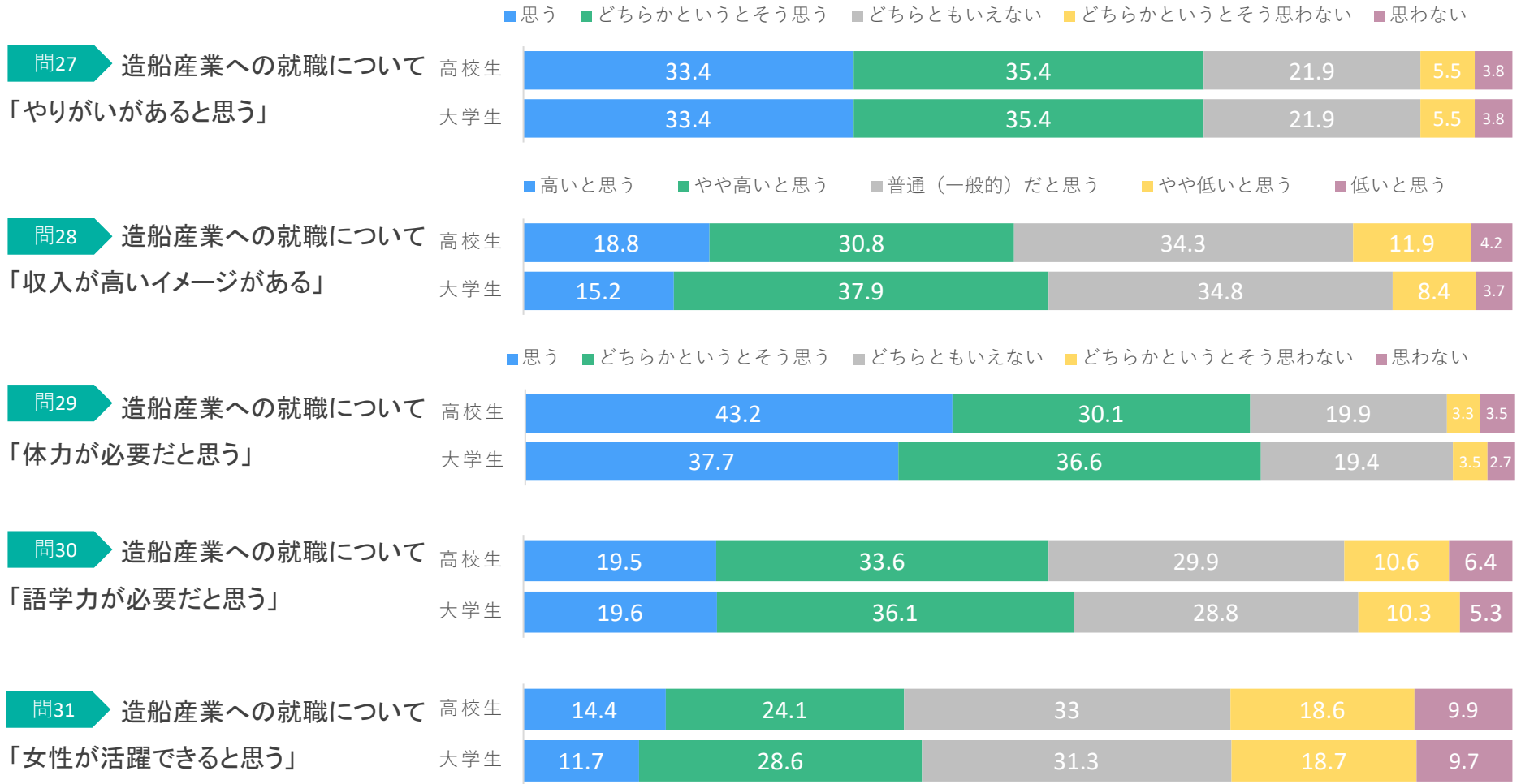
世界で一番大きなものをつくる仕事「造船産業」について、次の3枚の資料を御覧ください。  
世界の造船シェア3位であり、世界トップクラスの造船技術を有する造船産業への就職について、  
どのような印象をお持ちですか。

■ 思う ■ どちらかというと思う ■ どちらともいえない ■ どちらかというと思わない ■ 思わない



POINT  
考察

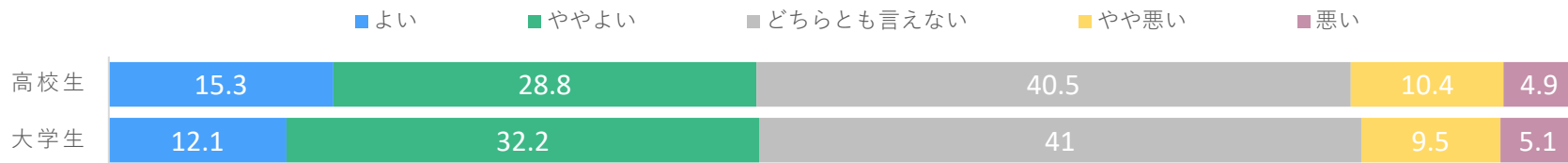
問23・問25・問26において、「思う」、「どちらかというと思う」との回答を合わせるといずれも7割程度を占めており、教材を通じて、造船産業が日本の産業と経済の発展に大きく貢献していることについて一定の理解や就職先としての肯定的なイメージを持ってもらう結果となった。



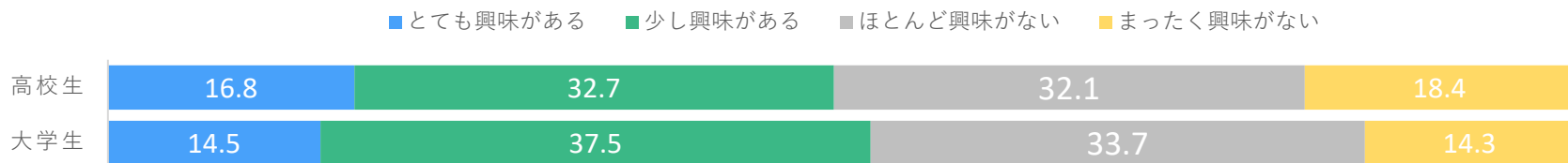
前頁の問23・問25・問26において、造船業の安定や将来性についてポジティブな回答を得られた一方、問29の「体力の必要性」に関するイメージについて、「思う」または「どちらかというと思う」の回答が高校生、大学生ともに7割を超えており、造船産業は力仕事というイメージが強く定着していると推測される。



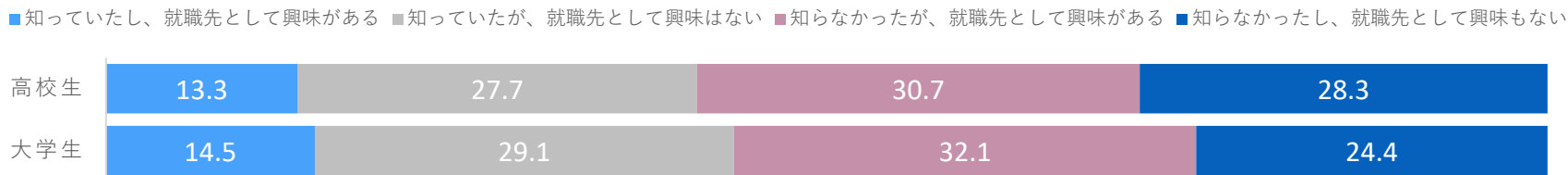
問32 造船産業への就職について「就職先としてのイメージがよい」



問33 世界で一番大きな工業製品を建造する究極の「ものづくり産業」である造船産業への就職に興味がありますか。



問34 造船の仕事は、実際に船を建造する技能系職種だけでなく、営業・マーケティングや図面設計などを行うデスク系職種も重要な役割を担っていることをご存じでしたか。

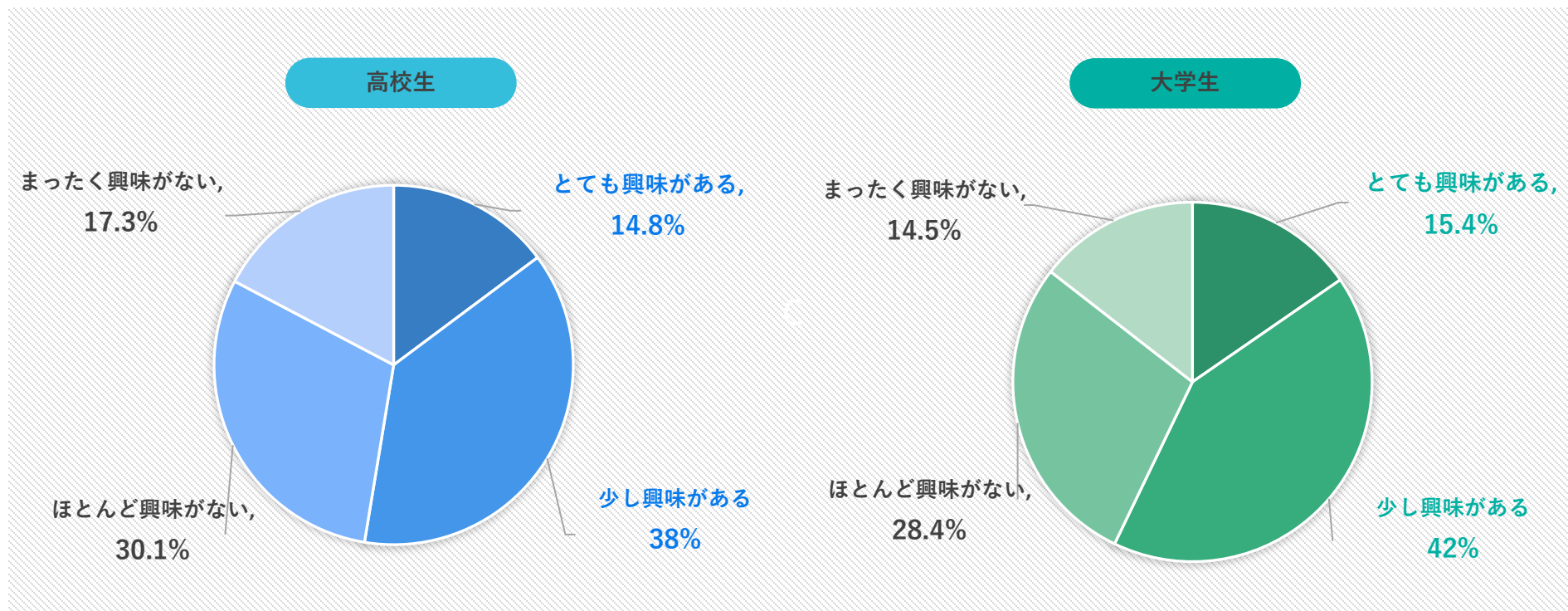


問32では、造船業への就職について、就職先としてのイメージが「よい」又は「ややよい」との回答が高校生、大学生共に4割を超えた。一方、同数程度が「どちらとも言えない」と回答しており、海事産業の中でも造船業に関しては、学生が自分の就職先としてイメージするには情報量が十分でなく、よいとも悪いとも判断がつかない学生が多かった可能性がある。（海運業における同回答の比率は2割前後）また、問34では、高校生、大学生ともに、半数以上で造船の仕事における「デスク系」の職種が認知されていないことが分かった。

## 調査②-7 アンケート結果 | 海事産業全般への就職の興味について

問35

このアンケートの実施後における、海運業や造船産業等の海事産業(海や船に関する業種)への就職に対する興味はいかがですか。

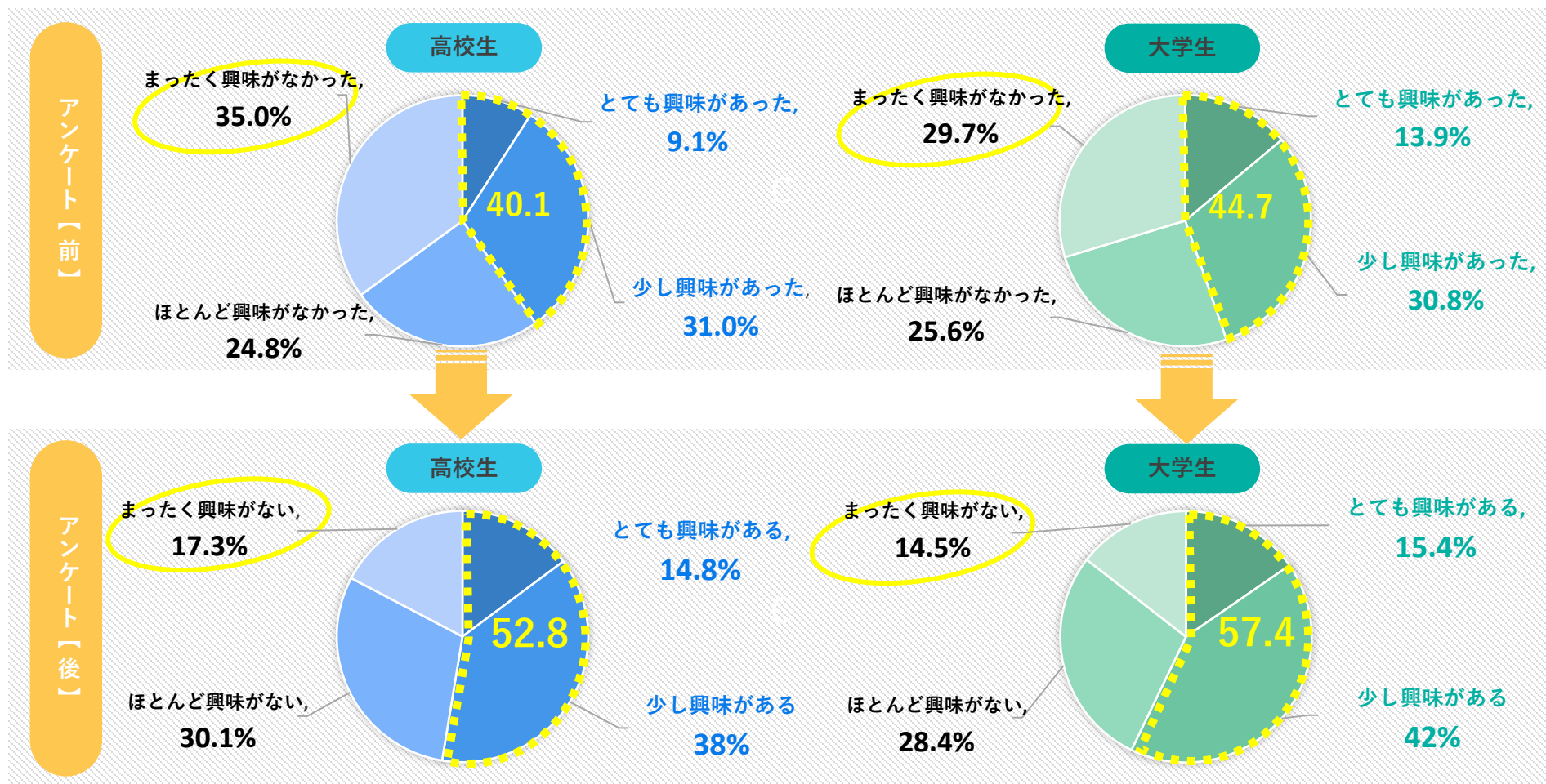


POINT  
考察

教材提供後のアンケートでは、高校生は「とても興味がある」が14.8%、「少し興味がある」が37.8%と、いずれも調査前と比較し、5ポイント以上上がった。

とくに大学生に関しては「とても興味がある」が15.4%に対して、「少し興味がある」が41.8%と11ポイント上昇した。

## 調査②-8 アンケート結果 | 海事産業全般への就職の興味について (調査前との比較)



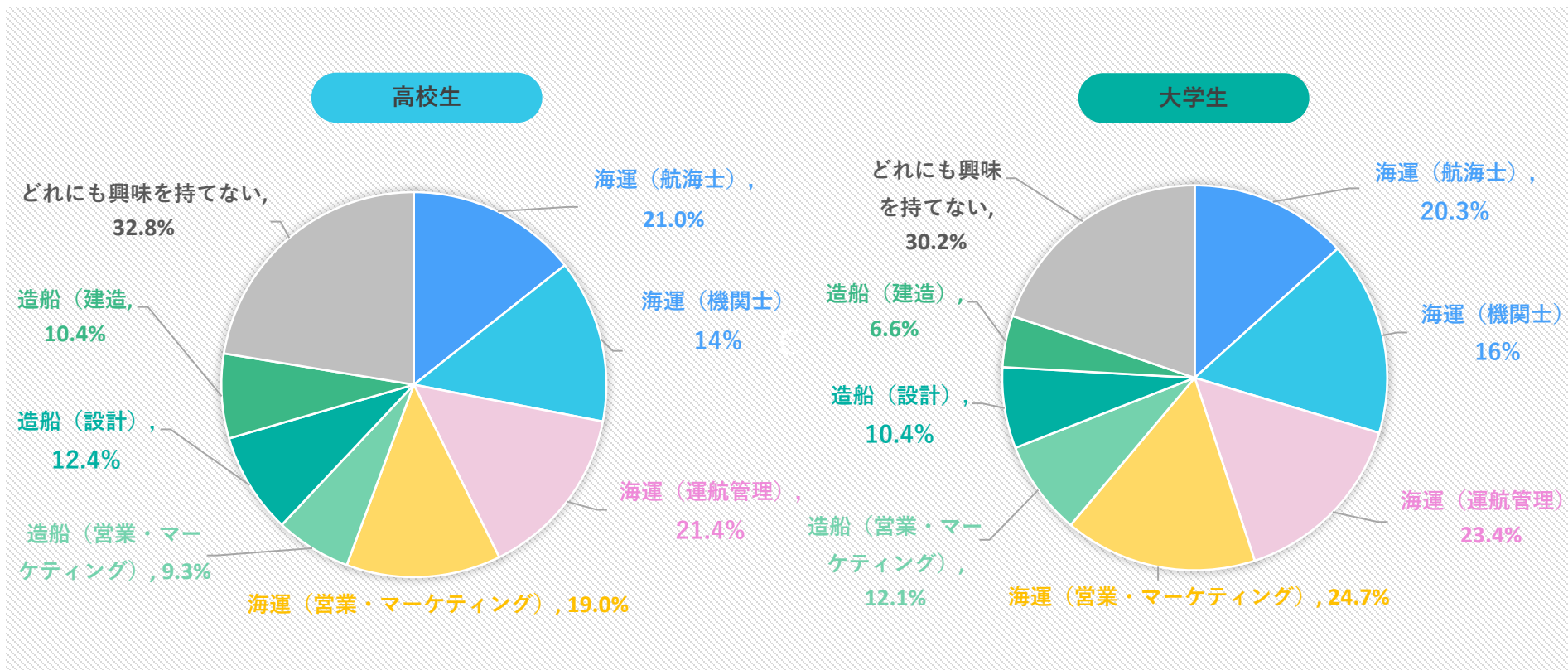
POINT  
考察

問10の事前調査と比較し、「とても興味ある」又は「少し興味がある」とのポジティブな回答が、高校生と大学生それぞれで教材提供後に12ポイント以上上昇する結果となった。また、「まったく興味がない」との回答数については、本調査の前後で大きく減少する変化が見られたことから、海事産業への就職に関する興味の低さは、海事産業についての「知識や情報の不足」が要因の1つとなっていると考えられる。

このため、海事産業においては、業界の認知向上、仕事の特徴や職種ごとのやりがいなど、学生が就職先として検討するうえで重要な情報を積極的に発信していく必要がある。

問36

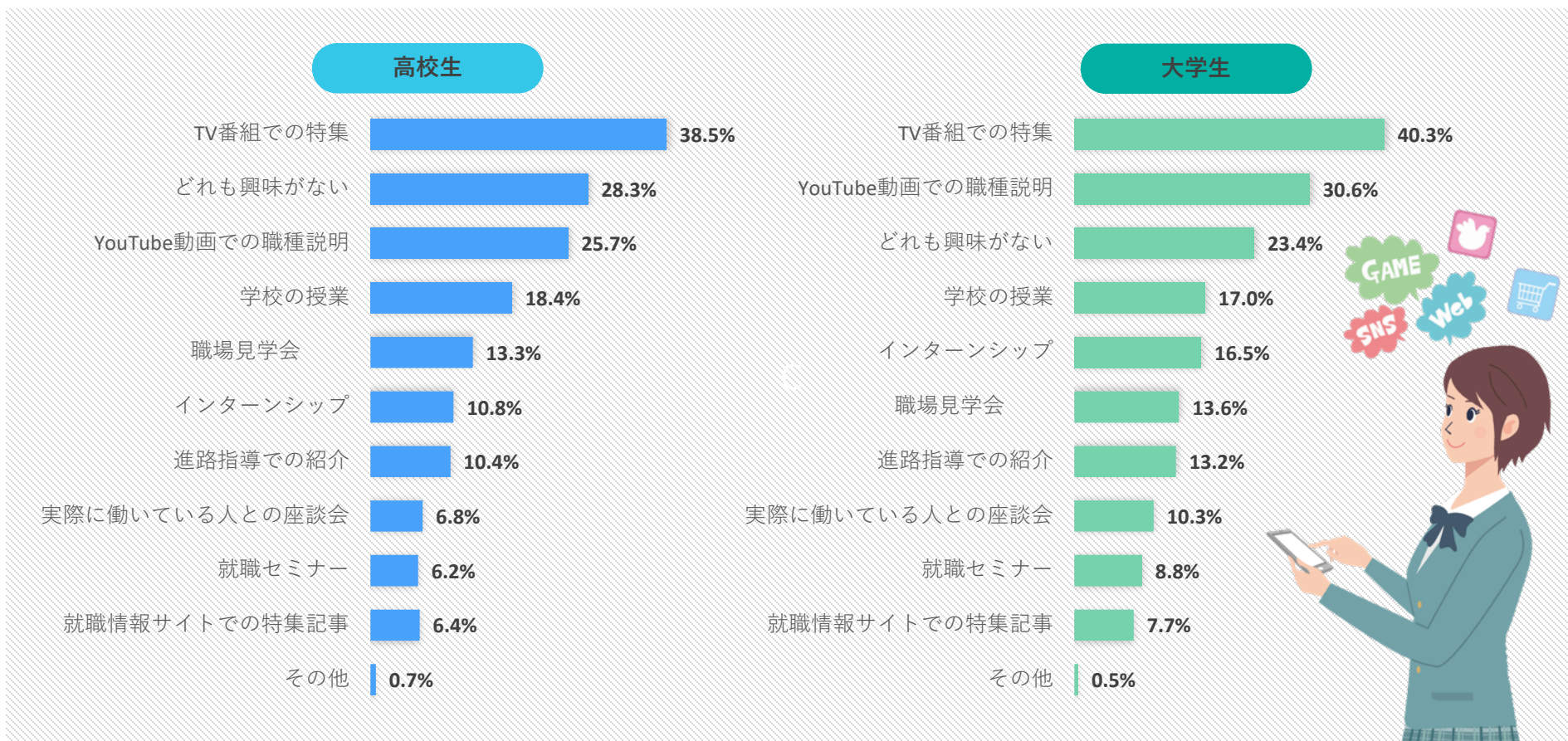
今回の調査を通じて海事産業について知ったことで、将来の仕事として関心をもった職種はありますか？  
当てはまるものをすべてお選び下さい。＜複数選択可＞



前頁より、半数以上の学生が教材提供を伴う本アンケート実施後に海事産業へ一定の興味を示す結果となった。  
また、将来の仕事として具体的な職種に関心をもった学生も6割以上あり、調査を通じた教材の提供に一定の効果があったと推測される。

問37

海や船にかかわる仕事について、今後どのような情報機会があれば、見てみたい/参加してみたいですか？  
当てはまるものをすべてお選び下さい。＜複数選択可＞



POINT  
考察

学生のニーズとして、TV番組やYouTubeなど、「動画素材」による情報機会の人気が高いことが分かった。特にYouTube動画の場合は、一度動画を制作したのちは無料且つ色々なHP・説明会等で繰り返し活用が可能であり、情報発信手段として活用する価値が高いと言える。

また、「進路指導での紹介」、「職場見学会」、「インターンシップ」については、いずれも学校や授業を通じて学生に提供可能な範囲であり、「学校の授業」の回答と合わせると学生のニーズは5割以上に達する。

学生との間接的な接点として、海洋教育の一環や、学校関係者を通じた情報提供を継続していくことも、高い効果を得られる可能性がある。



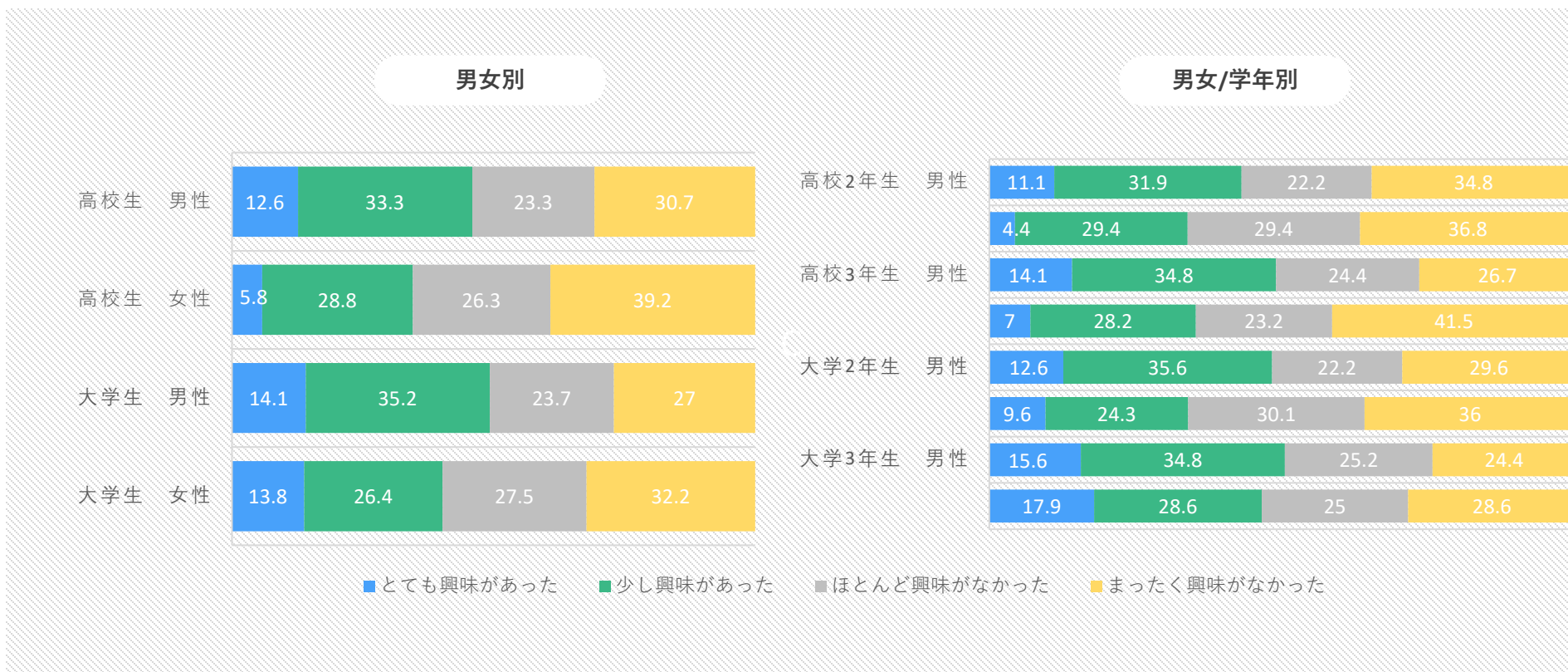
## 参考（クロス集計）



# アンケート調査 / 海事産業への就職の興味について

問10

このアンケートの実施前に、海運業や造船産業等の海事産業(海や船に関する業種)への就職に興味を持ったことはありますか。

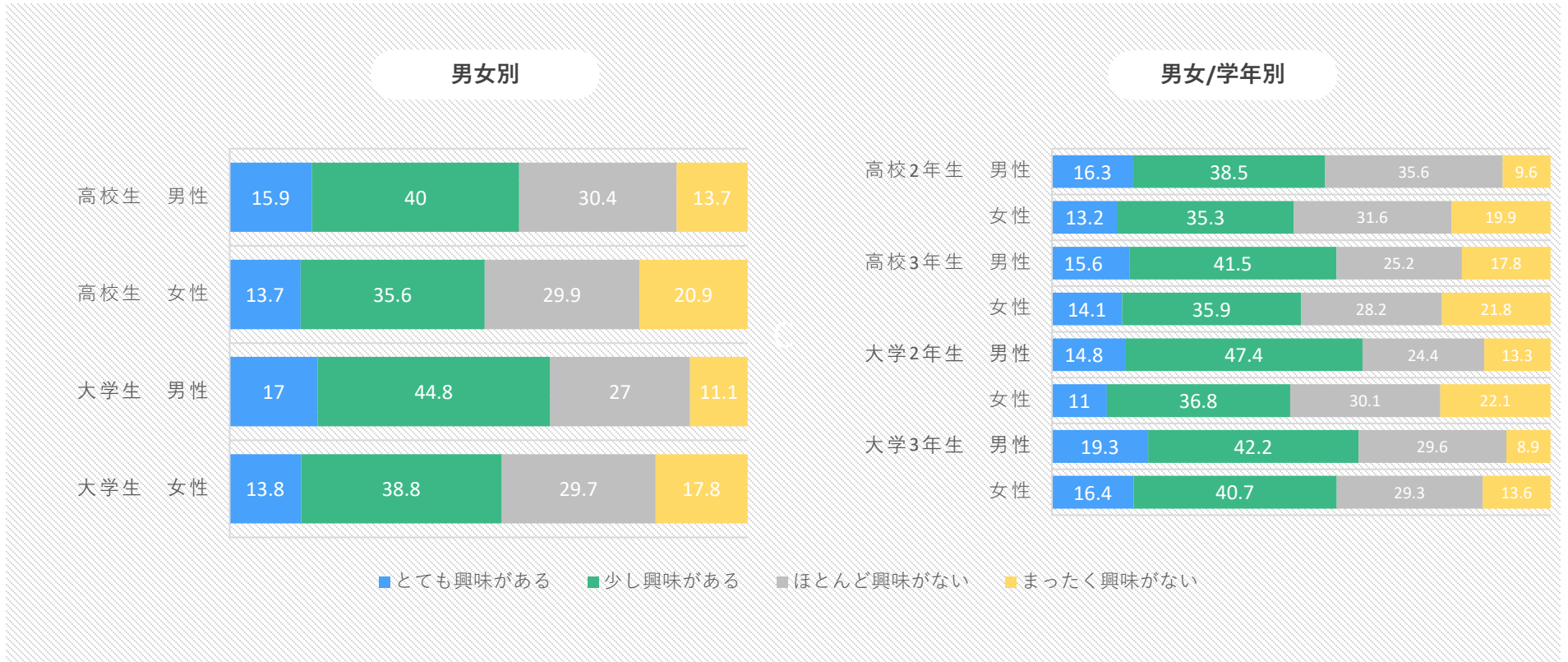


アンケート実施前の海事産業への就職の興味については、学年/男女別で見た場合、高校生女性における「とても興味があった」との回答が少ない結果となった。

一方で、学年別に見た場合、男女ともに海事産業への興味は学年が上がるごとに高くなる傾向があるが、その傾向は女性の方が顕著に見られ、特に大学3年生では「とても興味があった」との回答比率において女性が男性を上回っている。

# アンケート調査/海事産業全般への就職の興味について

問35 このアンケートの実施後における、海運業や造船産業等の海事産業(海や船に関する業種)への就職に対する興味はいかがですか。

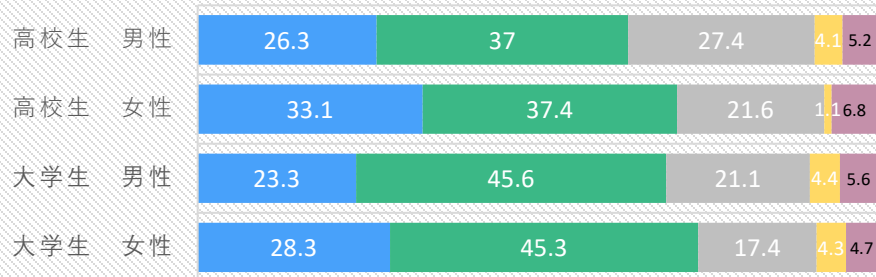


教材提供後のアンケートでは、全体を通して女性に関しての前向きな回答結果の変化が大きく、とくに「高校2年生 女性」が約9ポイント上昇。アンケート前に比べ、男女差の開きが少なくなり、男女共に半数近くの学生が海事産業へ一定の興味を示す結果となった。このことから、海事産業に関して十分な知識が無い状態では、特に「高校生 女性」層の関心が低いが、適切な知識を補うことにより、「高校生 女性」層であっても就職先としての関心を一定程度得られることが分かった。

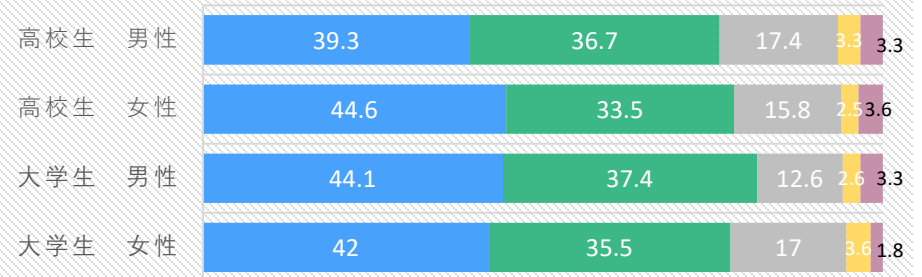


## 男女別（海運業への就職への期待）

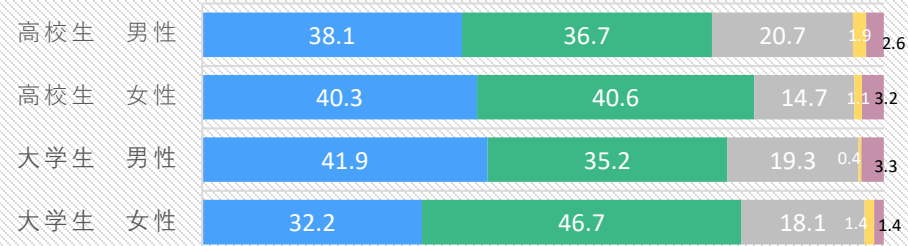
### 問11 海運業への就職について「将来性があると思う」



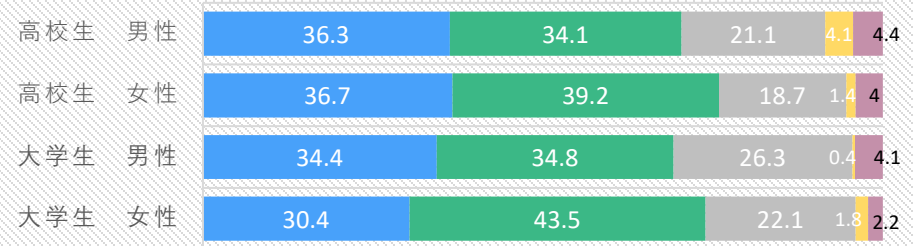
### 問12 海運業への就職について「国際性があると思う」



### 問13 海運業への就職について「社会的貢献ができると思う」



### 問14 海運業への就職について「やりがいがあると思う」



■ 思う    ■ どちらかというと思う    ■ どちらともいえない    ■ どちらかというと思わない    ■ 思わない

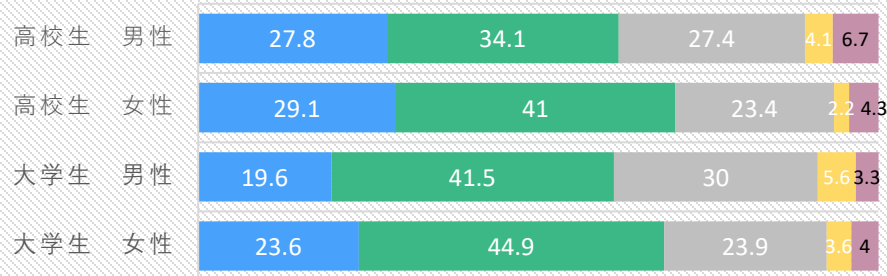
POINT  
考察

教材提供後の問11～問14の回答において、「思う」、「どちらかというと思う」を合わせると7割に達する場合が多く、今回の調査を通じ、男女共に海運業への就職に対しポジティブな印象を抱いたことがわかる。

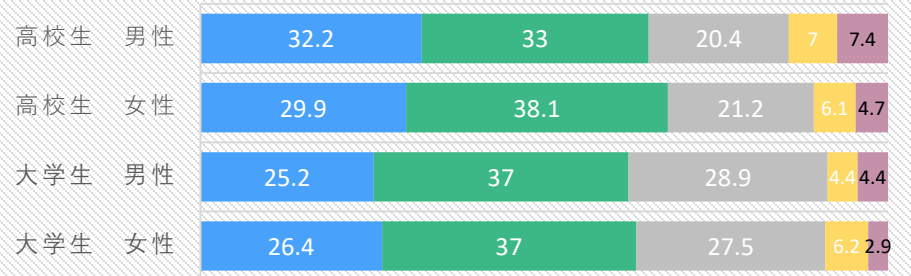
また、海運業において、どちらかというとも男性より女性の方が業界への期待値が高い傾向にあることがわかった。

## 男女別（造船産業への就職への期待）

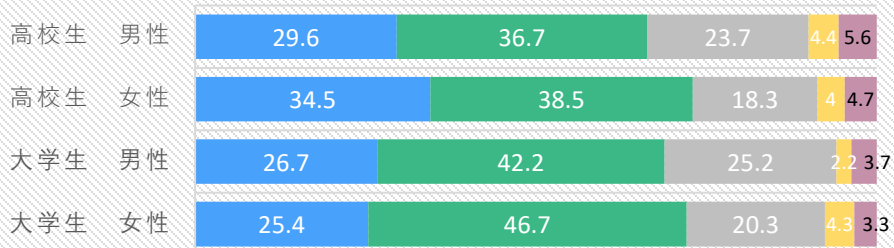
### 問23 造船産業への就職について「将来性があると思う」



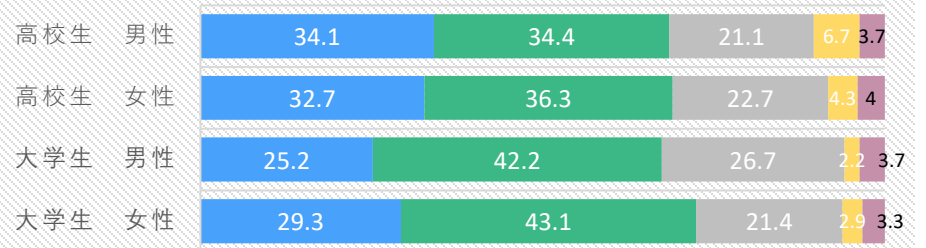
### 問25 造船産業への就職について「国際性があると思う」



### 問26 造船産業への就職について「社会的貢献ができると思う」



### 問27 造船産業への就職について「やりがいがあると思う」



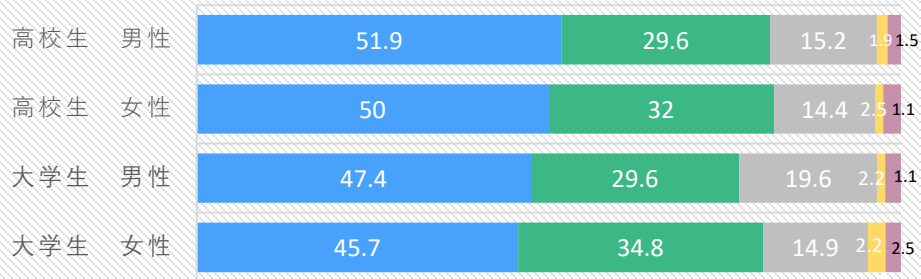
■ 思う    ■ どちらかというと思う    ■ どちらともいえない    ■ どちらかというと思わない    ■ 思わない

POINT  
考察

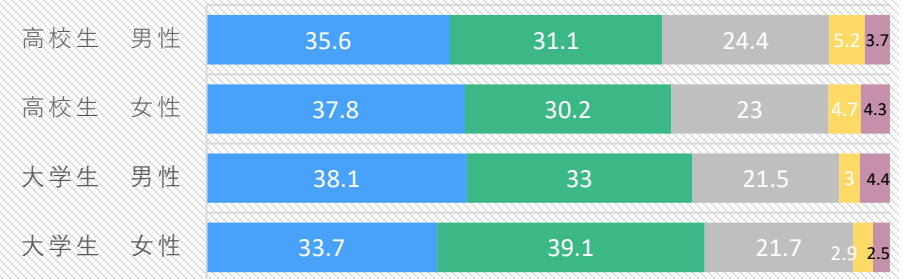
教材提供後の問23・25～問27の回答においても、「思う」と「どちらかというと思う」を合わせると過半数に達する場合が多く、今回の調査を通じて、男女共に造船産業についても就職に関しポジティブなイメージを抱く結果となった。  
また、造船業においても、どちらかというとも男性より女性の方が業界への期待値が高い傾向にあることがわかった。

## 男女別（海運業への就職への印象）

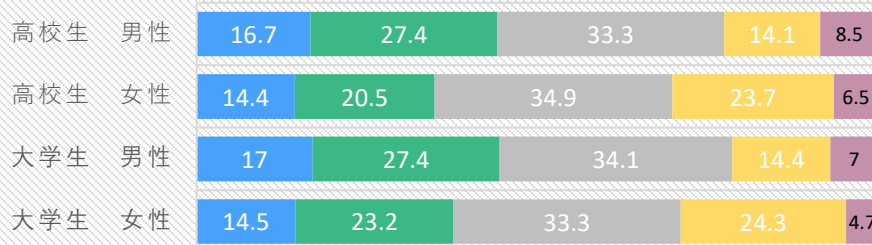
### 問16 海運業への就職について「体力が必要だと思う」



### 問17 海運業への就職について「語学力が必要だと思う」



### 問18 海運業への就職について「女性が活躍できると思う」



■ 思う    ■ どちらかというと思う    ■ どちらともいえない    ■ どちらかというと思うわない    ■ 思わない

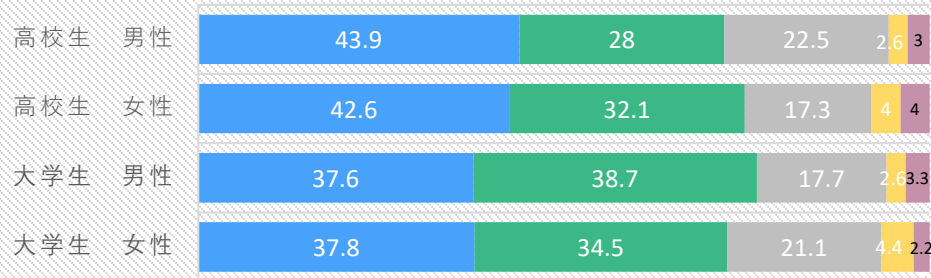
POINT  
考察

教材提供後の問16の回答で「思う」、「どちらかというと思う」は、男女ともに約8割に達しており、多くの学生が海運業が体力仕事であるという共通認識をもっていることがわかる。

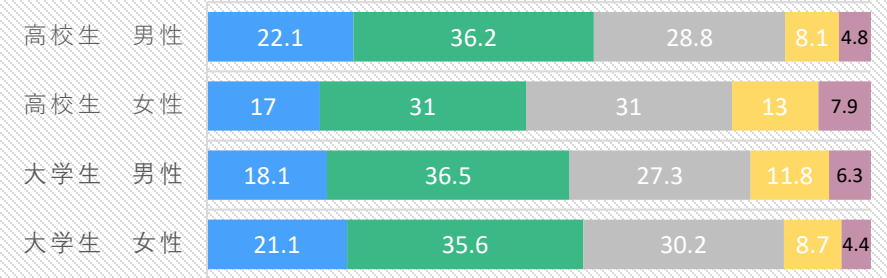
また、問18「女性が活躍できると思う」の回答で、「思う」及び「どちらかというと思う」との回答は男性で45%弱を占めたが、女性では35%強にとどまり、女性の活躍に関する期待値は男女間で10ポイント近くの開きが生じているのも印象的な結果となった。

## 男女別（造船産業への就職への印象）

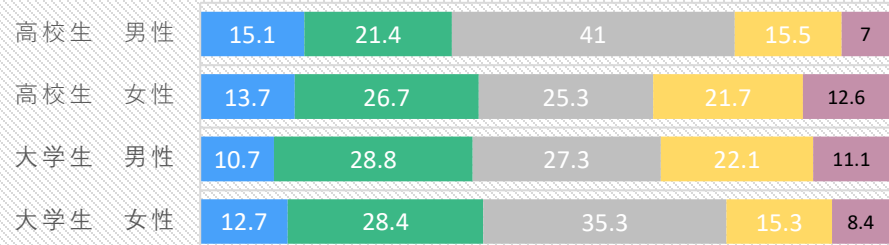
### 問29 造船産業への就職について「体力が必要だと思う」



### 問30 造船産業への就職について「語学力が必要だと思う」



### 問31 造船産業への就職について「女性が活躍できると思う」



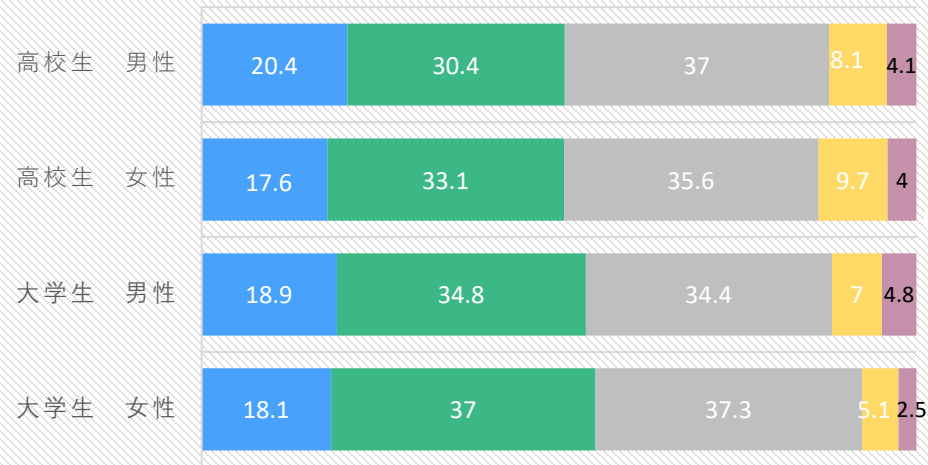
■ 思う    ■ どちらかというと思う    ■ どちらともいえない    ■ どちらかというと思わない    ■ 思わない

POINT  
考察

造船産業においては、教材提供後の問31「女性が活躍できると思う」への回答について、「思う」、「どちらかというと思う」は高校生、大学生共に男女間で大きな開きはないものの、いずれも4割程度にとどまっている。近年、社会的にも女性が活躍できる制度づくり、環境づくりへの取り組みが広がりを見せているが、就職前の時点での学生の持つ業界への女性進出のイメージは、海運業と同様に造船産業もあまり高くないことがうかがえる。

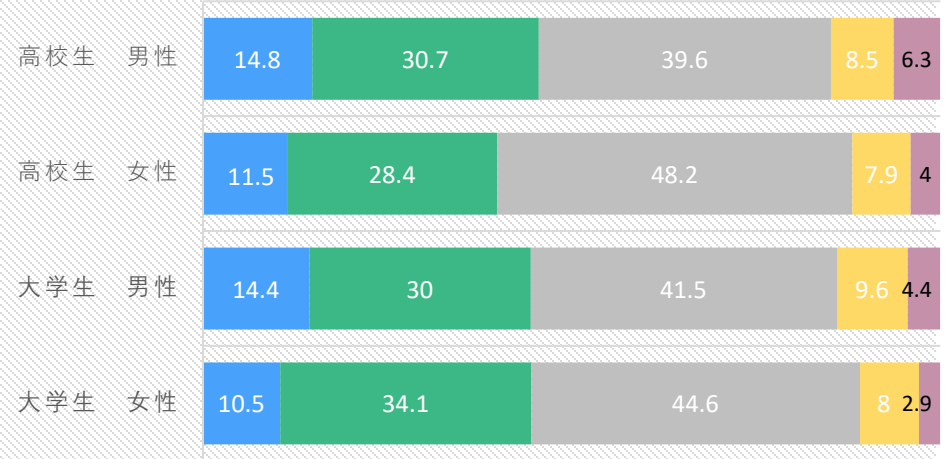
男女別（海運業への就職のイメージ）

問15 海運業への就職について「収入が高いイメージがある」



■高いと思う ■やや高いと思う  
 ■普通（一般的）だと思う ■やや低いと思う  
 ■低いと思う

問19 海運業への就職について「就職先としてのイメージがよい」



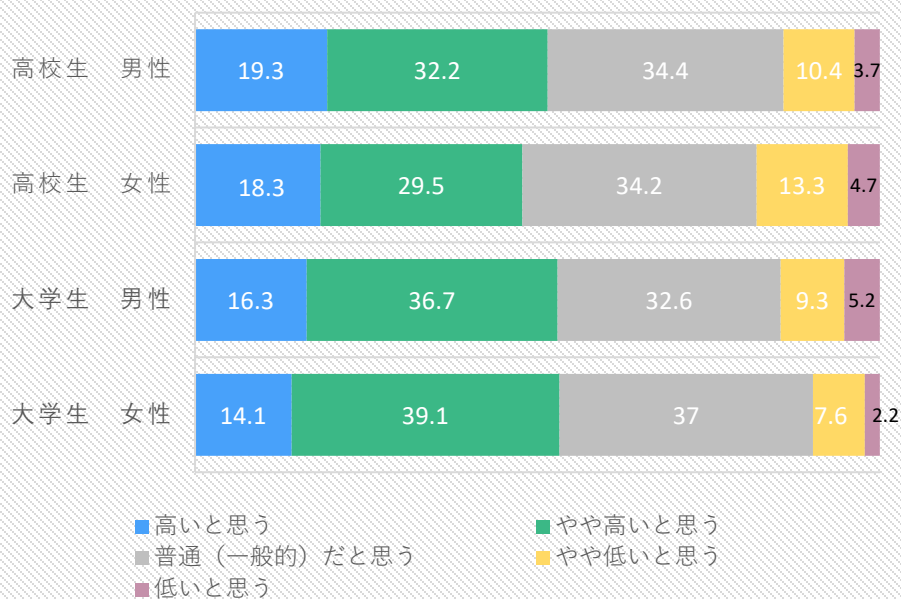
■よい ■ややよい ■どちらとも言えない ■やや悪い ■悪い



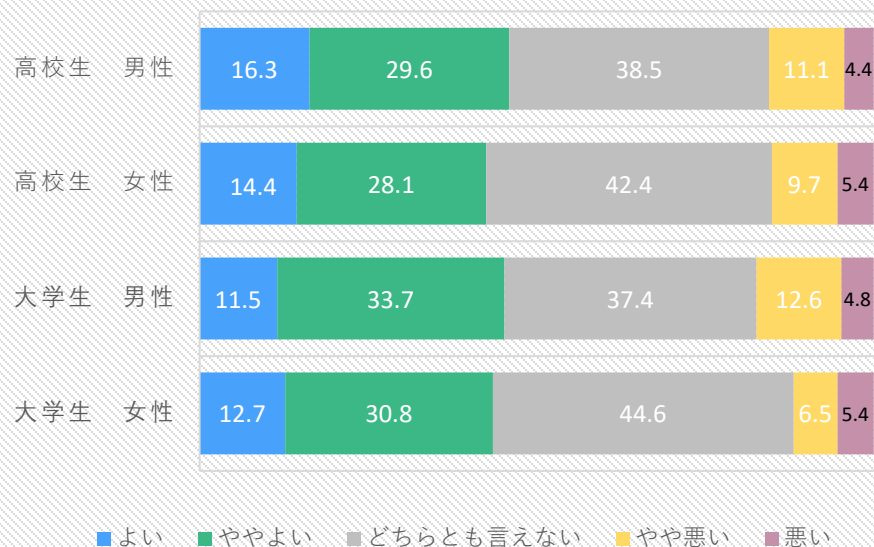
問15「収入が高いイメージがある」の回答では、男女ともに半数以上が「思う」又は「どちらかというと思う」と回答している。これに対し、本紙35頁での問16では、男女ともに約7割以上が「体力が必要だと思う」について「思う」又は「どちらかというと思う」と回答しており、海運業に対して、学生は「収入は良いが、体力仕事」というイメージを持っているといえる。

男女別（造船産業への就職のイメージ）

問28 造船産業への就職について「収入が高いイメージがある」



問32 造船産業への就職について「就職先としてのイメージがよい」



POINT  
考察

造船産業においても、問28の回答で、「収入が高いイメージがある」では、高校生（女性）を除き男女ともに半数以上が「思う」又は「どちらかというと思う」と回答している。しかし、本紙36頁での問29では男女ともに7割以上が「体力が必要だと思う」について「思う」又は「どちらかというと思う」と回答しており、造船産業に対しても、学生は「収入は良いが、体力仕事」というイメージを持っていることが分かる。